



濃家裏抄係
上



特別
イ 4
3163
107(1)



ゆゑの事此神を祀りて... 此の神を祀りて... 此の神を祀りて...

夏二

建保六年夏令小夏

難

此の神を祀りて... 此の神を祀りて... 此の神を祀りて...

とてふなりぬ... 此の神を祀りて...

此の神を祀りて... 此の神を祀りて... 此の神を祀りて...

後法皇... 此の神を祀りて...

後

此の神を祀りて... 此の神を祀りて... 此の神を祀りて...

後

此の神を祀りて... 此の神を祀りて... 此の神を祀りて...

〇此の神を祀りて...

〇七

櫻とつたそんやまのこやまよみ人のまよ

Handwritten text in a cursive script, likely a song or poem, consisting of several lines.

羈旅一哥

旅のこころを

離れ

Main body of handwritten text on the right page, enclosed in a rectangular border.

Main body of handwritten text on the left page, enclosed in a rectangular border.

旅歌一

旅のこころを

離れ

Main body of handwritten text on the left page, below the header.


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

歌~~~~~

船歌

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

信濃具定母

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

家傳

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~







Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text, possibly a signature or a specific phrase within the letter.

Handwritten text in a cursive script, continuing the letter or manuscript page.

Handwritten text in a cursive script, continuing the letter or manuscript page.

三十一

おのれ

後京極様改

Handwritten text in a cursive script, continuing the letter or manuscript page.











Handwritten text in a cursive script, likely a list or a series of entries, spanning the top half of the page.

具取好札

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or series of entries, spanning the bottom half of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or a series of entries, spanning the top half of the page.























その昔の川流の跡を尋ねて見よ

春の歌

春の歌の跡を尋ねて見よ  
春の歌の跡を尋ねて見よ  
春の歌の跡を尋ねて見よ  
春の歌の跡を尋ねて見よ  
春の歌の跡を尋ねて見よ  
春の歌の跡を尋ねて見よ  
春の歌の跡を尋ねて見よ  
春の歌の跡を尋ねて見よ  
春の歌の跡を尋ねて見よ  
春の歌の跡を尋ねて見よ

春の歌の跡を尋ねて見よ

春の歌の跡を尋ねて見よ

春の歌の跡を尋ねて見よ

其の歌

其の歌の跡を尋ねて見よ

其の歌の跡を尋ねて見よ

其の歌の跡を尋ねて見よ  
其の歌の跡を尋ねて見よ  
其の歌の跡を尋ねて見よ  
其の歌の跡を尋ねて見よ  
其の歌の跡を尋ねて見よ  
其の歌の跡を尋ねて見よ  
其の歌の跡を尋ねて見よ  
其の歌の跡を尋ねて見よ  
其の歌の跡を尋ねて見よ  
其の歌の跡を尋ねて見よ

六月後

六月後の跡を尋ねて見よ

六月後の跡を尋ねて見よ



鳴瀧の糸の糸よあはれ川より。 延命秋の糸よりあはれ  
あはれ白糸の糸よあはれ川より。

秋新上

初秋

後京極指改

秋の糸よあはれ川より。 延命秋の糸よりあはれ  
あはれ白糸の糸よあはれ川より。

あはれ白糸の糸よあはれ川より。

いそよそとむせりぬり。

ふもよもよもあはれ

大糸の糸よあはれ

あはれ白糸の糸よあはれ川より。

あはれ白糸の糸よあはれ川より。

あはれ白糸の糸よあはれ川より。

あはれ白糸の糸よあはれ川より。

あはれ白糸の糸よあはれ川より。

あはれ白糸の糸よあはれ川より。



今より秋の巻見やいづちむらさふをたのしみかた

原家信

まじはてつとばあきすのちひふもたを酒おりや秋乃々言

建曆二年松尾社言合小初秋風

たふ玉のころしはあけいづこよあきと秋そよ葉りこも

あきとたし初めしこし。しあきふ毎月をうらやま

年よはるあきふたふ葉の上月ふ海の敷りこもあき

あき。トの年をうらやまふ秋のやあきあき

建曆三年あき言合小初秋風 説二位家信

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

建曆二年秋十言合小初秋風 説三位家信

今より秋の巻見やいづちむらさふをたのしみかた

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき











西軍の入りて幕府が政を長家世に譲りて小秋并

家傳の

新白くはる指の... 及ぶ... の川をカ  
有る... 中... 小

如新法師

心... 秋... 乃... 入...  
... 秋... 乃... 入...  
... 秋... 乃... 入...

心... 乃... 入...

後京極持政

幸... 乃... 入... 乃... 入... 乃... 入...

秋下

乃... 入... 乃... 入...

二條院潜波

乃... 入... 乃... 入... 乃... 入... 乃... 入...  
乃... 入... 乃... 入... 乃... 入... 乃... 入...  
乃... 入... 乃... 入... 乃... 入... 乃... 入...  
乃... 入... 乃... 入... 乃... 入... 乃... 入...  
乃... 入... 乃... 入... 乃... 入... 乃... 入...

乃... 入... 乃... 入...

順徳院清和



元紫御供物

一 洗菜 神酒

一 野菜 古根

一 時菜物

一 菜古根

一 海菜類

一 鹽水



Handwritten text in vertical columns, likely a letter or official document, written in a cursive script.

Handwritten text, possibly a signature or a specific title, located in the middle of the page.

Handwritten text in vertical columns, continuing the document's content.

Handwritten text in vertical columns, occupying the main body of the page.















思ひ給ひのまゝに外へお出なされしに、かゝる中へ入りし中へ  
さしお入りしに、さしお入りしに、さしお入りしに、さしお入りしに、  
さしお入りしに、さしお入りしに、さしお入りしに、さしお入りしに、  
さしお入りしに、さしお入りしに、さしお入りしに、さしお入りしに、

道物法親王さまの御書

宗家様へ

たゞおぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、  
おぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、  
おぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、  
おぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、

おぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、  
おぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、

正法百首歌集の御書

久しみのあやうに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、  
おぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、  
おぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、  
おぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、おぼやかりしに、

意三

歌一

小傳







三三六

後を相院下野

おのゝ日教のつらき御心もあはれ人へては御心あはれ  
の御心もあはれ

三三六

三三六

三三六

おのゝ日教のつらき御心もあはれ人へては御心あはれ  
の御心もあはれ

おのゝ日教のつらき御心もあはれ人へては御心あはれ  
の御心もあはれ







急ぎ下

恨意

宗隆

此を以て今に書きたる事は其の故は之に在り  
 其の事を知る事なき事なり其の事を知る事なき事なり  
 其の事を知る事なき事なり其の事を知る事なき事なり  
 其の事を知る事なき事なり其の事を知る事なき事なり  
 其の事を知る事なき事なり其の事を知る事なき事なり

龍乳中

致し以支

後を神院法製

人々を以て今に書きたる事は其の故は之に在り  
 其の事を知る事なき事なり其の事を知る事なき事なり  
 其の事を知る事なき事なり其の事を知る事なき事なり  
 其の事を知る事なき事なり其の事を知る事なき事なり  
 其の事を知る事なき事なり其の事を知る事なき事なり  
 其の事を知る事なき事なり其の事を知る事なき事なり

龍奇下

○此は龍奇の事なり其の故は之に在り

○甲一















